人跡未踏とされた劔岳山頂を目指す測量隊の姿を描いた映画「劔岳 点の記」

厳しい顔つきで立つ柴崎芳太郎役の浅野忠信と、宇治長次郎役の香川照之。脚本の流れ通りに撮影する「順撮り」が、表情にリアリティを生んだ。（北日本新聞社）

劔岳の測量に向け、作業を進める柴崎（中央）と生田（左）ら

北海道地域の上映館

札幌シネマフロンティア
ユナイテッド・シネマ札幌
シネプレックス旭川
ディノスシネマズ旭川
シネマ太陽函館
シネマ太陽帯広
ディノスシネマズ苫小牧
恵庭・東宝シネマ8
ワーナーマイカル江別
ワーナーマイカル小樽
ワーナーマイカル北見
ワーナーマイカル釧路

明治時代末、北アルプス・立山連峰劔岳で参謀本部陸地測量部（現在の国土地理院）によって実際に行われた山岳測量計画に基づく小説。日本地図を作るためだけに信念と勇気をもって困難な山岳測量に取り組んだ男たちの仲間の絆・不屈の闘志・献身の心・使命に生きる姿を通して、効率や名利を追求したり結果を急いだりすることの儚さや、誇りと勇気・信念を持って真摯に生きることの素晴らしさを描き、「日本人がなくしてはならないもの」を問いかけた新田文学の白眉といわれている。　出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』「劔岳 点の記」の「概要」より

札幌支店 移転のお知らせ

謹啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

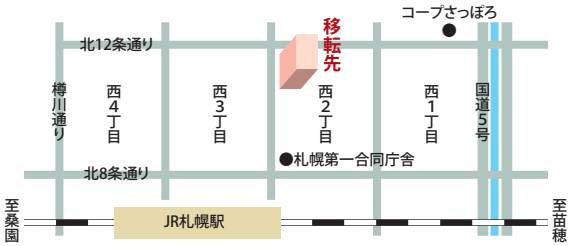
さて、昭和49年に開設いたしました弊社札幌支店は、昭和60年に現住所に移転し営業を続けてまいりましたが、このたび下記住所に移転し7月21日（火）から新事務所にて業務を開始する運びとなりましたので、ここにご案内を申し上げます。

なお、これを機に社員一同気持ちを新たに業務に精励する所存ですので、何卒変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

まずは、略儀ながら誌面をもってご挨拶申し上げます。

謹　白

代表取締役　加藤和雄



▶新住所：〒001-0011
札幌市北区北11条西2丁目10番地4
ＴＥＬ：011-708-0708（代表）
ＦＡＸ：011-708-7700

旭川支店

建設コンサルタント業・測量業・補償コンサルタント業・建築設計
ISO 9001：2000認証登録

株式会社ドボク管理

本　　社 ● 〒090-0801 北見市春光町1丁目24番地3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508
札幌支店 ● 〒060-0908 札幌市東区北8条東1丁目3-7大一ビル TEL.011-704-6704 FAX.011-704-6703
旭川支店 ● 〒070-0831 旭川市旭町1条13丁目688番144 TEL.0166-54-7270 FAX.0166-51-1363
網走出張所 ● 〒093-0076 網走市北6条西3丁目3番地 TEL.0152-43-4150 FAX.0152-43-4160

ドボクン！ DOBOKU KANRI!
地域情報誌
発行（株）ドボク管理
ホームページ　http://www.dobokukanri.co.jp/
NO.10
2009.7.1

知床エゾシカファーム正面ゲート向かいはオホーツク海

ドボク管理
補償部門の紹介

特集 | （株）知床エゾシカファーム
異業種への挑戦
養鹿業、鹿肉の加工・販売

株式会社ドボク管理

補償部門のご紹介

はじめに

公共事業の施行は、一般的に事業計画の決定、実測線測量等の現地調査、用地・建物等の調査、補償額の算定、用地交渉（協議）を経て、これらが完了(成約)した後に工事の着手という手順で進められます。

当社の補償部門では、この一連の流れの中での「用地・建物の調査」、「補償額の算定」及び「移転工法の検討等これに関連する業務」を行っております。

今回は、これらの業務概要を紹介します。

1. 補償部門が行う主な業務

主な業務を大別すると、「①建物等の物件調査」、「②物件以外の調査」及び「③補償額の算定」となります。

「①建物等」とは、建物、工作物、立木（庭木を含む）で、この調査は、基本的には事業用地として確定した範囲に所在するものを対象としますが、残地内にある物件への影響が明らかな場合には、関連物件として調査することがあります。

作業は、現況を把握するために、所有者、用途、構造、面積、樹種、形状を、建築士等の技術者が直接現地において調査します。これらは、補償額を算定する上での基礎データとなるために、最も重要な工程です。

「②物件以外の調査」とは、専用住宅の場合には居住者、動産等を、借家の場合には借家人、家賃、敷金等を調査します。

また、店舗等営業が伴う場合には、業種、営業内容等を調査します。これは、建物を移転することにより、休業、営業規模縮小等が伴う場合の補償に連動するものです。

「③補償額の算定」とは、現地調査のデータを基にそれぞれの補償額を算定するものです。算定の一連の工程内でのミスが生じないように、算定システムへの調査データ入力により、自動算定を可能としています。

この現地調査から算定までの工程では、成果の精度管理のために、適宜レビュー（確認、点検、照査）します。また、併せて関連基準・細則、仕様書等に適合しているかも確認します。

2. これらに関連する業務

関連する業務とは、適正な補償を行う目的の調査、検討で、主なものは以下のとおりです。

① 消費税調査

補償額に消費税を考慮するか否かを判断するもので、聞き取りや資料を収集します。

② 敷地使用実態調査

予備調査として、土地取得等に係る一団の敷地内の使用実態を調査するもので、残地内で従前の使用形態が再現できるかどうかの判断資料となります。

③ 建物等の残地移転要件の該当性の検討

現況の敷地内における建物等の位置関係及び敷地使用の実態調査により、残地が妥当と認められる移転先となり得るかを検討するものです。

④ 移転工法案の検討

工場等で、敷地の一部が土地取得の対象となる場合に、残地において従前の機能を回復するための移転工法を検討するものです。残地内で回復できない場合には、一部の移転又は全面移転が妥当かを判断して提案するものです。

また、残地内で複数棟の建物の集約、階層化等で再現が可能な場合には、建物設計と補償額の算定を行います。

3. 工損調査等

事業損失として、公共事業に係る工事の施行に起因する騒音、振動、地盤変動等によって、建物等に損害（破損、亀裂、歪み等）が生じるおそれがある場合に建物等を調査します。

調査には、事前と事後があり、損傷等物理的変化があった場合には、当該工事に起因したものか否かの判断を行います。

また、因果関係が明確な場合には、原状回復に必要な費用を算定します。

おわりに

常に顧客の満足を得られるために、従前にも増して成果品質の確保・向上に努めていきます。

建物調査において建具を計測する調査員

庭木(鑑賞樹)の調査を行う調査員

時代の潮流・異業種への新たな挑戦

養鹿業、鹿肉の加工・販売
(株)知床エゾシカファーム

近年、急激な公共事業の縮小や民間需要の伸び悩みによる受注競争の激化などから、地場の建設業をとりまく状況は非常に厳しいものとなっています。

しかし、地域における建設業の役割は多様で、地域の経済・雇用を支える基幹産業であり、災害応急および復旧対策における中核的存在となっています。

こうしたことから、建設業は時代の変化に対応し、経営革新を図りながら成長していくことが地域から期待されています。

そんななか、経営革新の一環として新分野への進出に取り組む企業があります。

今回は、世界遺産「知床」のお膝元である斜里町で建設業と共に養鹿業を営み、エゾシカの有効活用事業として、平成２０年度新分野進出優良企業表彰を受賞された「斜里建設工業株式会社」(以下、斜里建設と省称)をお訪ねし、社長の土田↗

知床エゾシカファームで捕獲された野生のエゾシカ

社長の土田好起氏(左)と、営業部長の富田勝将氏(右)

好起氏と営業部長の富田勝将氏に養鹿業への参入という新たな事業展開についてお話を伺いました。

エゾシカは、明治時代には絶滅の危機にありましたが、それ以後の長期に亘る保護活動に加えて、天敵であるエゾオオカミの絶滅やハンターの減少などから爆発的に個体数が増加し、自然環境の破壊や農林業被害を生み、地域にとって深刻な問題となっています。

いつの日からか、共存を模索する一方で、その被害の大きさに比例するように駆除を求める声も聞こえています。
つまりは、愛すべきエゾシカが厄介者扱いにされるようになったのです。

こうしたなか、斜里建設さんは、駆除という目的ではなく自然との調和を図りながらエゾシカを有効な地場資源としての活用を模索し、地産地消の拡大を目指すため「株式会社知床エゾシカファーム」を起業したとのことでした。↗

製品「知床もみじ」の商標登録証

(社)エゾシカ協会の推奨状

恵まれた自然環境の中にある、株式会社知床エゾシカファームでは、現在３５０頭ほどの鹿を一時養鹿しています。設立２年半とまだ短い営業期間ですが、素晴らしい営業理念のもと、トレーサビリティ(生産履歴管理システム：食品の生産から加工・流通・販売までの過程を明確に記録し、商品から遡って確認できるようにすること)の徹底と、衛生管理マニュアルに沿った品質管理で提供する鹿肉は、今までイメージしていた鹿肉とは別次元のものですが、大量に供給することができません。

しかし、安全でおいしい鹿肉を提供するこの養鹿施設は、地域のモデル事業として強い存在感を持ち合わせています。

鹿肉は、ノーベル賞の受賞パーティのメニューに出されることでも有名ですが、最近では鹿肉と一言でいわれてもあまりイメージが湧かないはずです。現在ご家庭の食卓に並べられることのほうが珍しい食肉です。

現地を案内してくださった社長の土田好起氏(左)

そこで・・・・
鹿肉の良さ!!を知ろう♪

鹿肉は、他の食肉よりも優れた栄養素をたくさん含んでいます。

しゃぶしゃぶ用のエゾシカ肉(写真提供：ホテル知床)

鹿肉には、血液の浄化作用があると言われるリノール酸や、ドコサヘキサエン酸(ＤＨＡ)が多く含まれていることがわかっています。DHA の摂取は、血中の中性脂肪(トリグリセライド)量を減少させ、心臓病の危険を低減するといわれています。さらに、脂質はなんと牛肉の約１０分の１と、大変健康にも良い食品なのです。

このように、低脂肪・高タンパク・高ミネラルで、栄養に関しても申し分ありません。女性には特に喜ばれること請け合いですが、なんといっても一番気になるのはその「味」！

鹿肉は癖があるからと、あまり口にしたいと思われない方は、野生の鹿(ハンターが狩猟し、血抜きが不十分のモノ)を食べたからに違いありません。半野生の鹿(業者が捕獲し、食肉用に餌付けされた鹿)を適正に加工することで、柔らかくて臭みもなく、とても食べやすい高級食材となるのです。

その味を直接味わいたいと思い、今回は知床の高台に悠然とそびえ立つ、「ホテル知床」さんにご協力いただきました。そこで、営業本部営業部営業課の柳澤亨氏の案内で、ホテルご自慢の鹿肉料理を試食しました。

鹿肉ハンバーグ

鹿肉冷しゃぶサラダ

★鹿肉ハンバーグ

バイキングでのみ提供しているメニューで、大変評判が良いとのことです。味はとてもまろやかで臭みも全くなく、キノコ類やとうもろこし・ブロッコリーなどの彩りある盛り付けが、よりいっそう美味しさを引き出しています。家族連れのお客様に人気で、特にお子様に大人気というのもうなずけます。牛肉や豚肉のハンバーグを食しているかのような食感で、お客様の中にも鹿肉と知らずに食べている方も多いというのも納得です。

★鹿肉冷しゃぶサラダ

一般的に食されている豚肉などの冷しゃぶサラダと見た目はなんら違いがないように感じられますが、これまでにも鹿肉を食べたことがある方も大絶賛したといわれる「知床エゾシカファーム」の鹿肉を使用した冷しゃぶサラダなのです。とてもさっぱりしており、それでいてしっかりした肉の味がサラダとの絶妙なコラボレーションを生み出しています。今回はごまドレッシングでいただいたのですが、そのままでもおいしく、ヘルシーで栄養価が高い鹿肉の冷しゃぶサラダは夏バテ解消に一役買いそうです。

ご協力いただいたホテル知床

現在、株式会社知床エゾシカファームさんでは食肉の一次加工までで、二次加工、販売は卸売業者が行っています。エゾシカ肉が地域ブランドとして流通が盛んになることで、自然環境や地域に及ぼす被害の減少にも寄与し、まさに地産地消の理念に基づいた理想の産業として、さらなる発展を期待したいものです。

手間暇をかけて適切に加工された安全な鹿肉に興味がある方や、食べてみたいと思われた方は、ぜひ一度地元に足を運ばれるか、株式会社知床エゾシカファームのＨＰをご覧ください。

今回は、建設業と養鹿業を両立させている斜里建設さんと、養鹿することで高級食材とした鹿肉を一般客の皆さんに提供されている「ホテル知床」さんに取材をさせていただきました。

知床エゾシカファームのサイト
http://shiretokomomiji.com/

現在、国土交通省と観光庁が推進する「観光圏整備事業」として、観光圏の基盤整備が本格化する中、本年度新たに「斜里町」が知床観光圏の地域として認定されました。自治体には、滞在型観光圏の形成を目指した整備計画を期待するところですが、近い将来、このエゾシカ肉が知床の「食の観光スポット」として認知され、北海道の「食の文化」として根付いていくことを願っています。

知床エゾシカファーム

最後に、取材の際ご協力頂いた皆様にお礼を申し上げますと共に、紙面の都合上満足な内容をお届けできず、お詫びを申し上げます。ここで紹介できなかったものは当社HPにおいてご覧になれますので、是非アクセスしてみてください。

●誌面の情報は、当社職員が独自に取材したものです。発行責任者：斉藤幹次(取締役副社長) 制作：ドボク管理 地域情報誌編集室 (〒090-0801 北見市春光町1-24-3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508)
http://www.dobokukanri.co.jp/